

3 . 日本・中国 FTA 締結の効果

近年、FTA 締結が当該国にとってどのような経済効果を持つかの議論が盛んである。しかし、その定量的な分析については、あまり研究がなされていない。

本プロジェクトでは、日本の有数の貿易相手国である中国を対象に FTA 締結の経済効果を計測することを目的とする。具体的には、日本の産業連関表を基本に開発した日本経済マクロモデル(JIDEA51)と同じコンセプトで開発された中国経済マクロモデル(MUDAN)をリンクし、その相互の貿易を通じて、FTA 締結により関税が除去された場合にどのような経済効果があるのかを計測する。

本年度は、日本が中国に対し、関税を撤廃した場合の効果について計測した。

中国の関税撤廃によりどの程度日本の対中輸出が伸びるかについては、中国モデルから計算されるので、本年度は INFORUM が所持している BTM (bridge trade matrix) の値をそのまま外挿した。

中国モデルとの結合作業は、来年度中に完成させる予定である。

日本の対中輸入がどの程度増加するかについての計測結果は、中央大学経済研究所設立 40 周年記念国際シンポジウム「日中地域経済統合とアジアの経済成長 日本経済への影響」で発表した。

詳細は、中央大学ディスカッションペーパーシリーズ No.63 2004/6/26 参照。